

東京都自立支援協議会第一回本会議（平成26年5月30日開催）概要

<全体会②>

【グループ討議の内容報告】

○ 1グループ（高沢副会長報告）

- ・ 人材育成について、相談支援専門員のスキルアップやスーパーバイズ、質的向上について議論が必要ではないかという話があった。
- ・ 障害者権利条約が批准された。合理的配慮や障害者差別解消法の取り組みについても、国から基本指針が出るのでタイムリーではないかという意見があった。
- ・ 広報の大切さという意見もあった。各地域の自立支援協議会では成果物を出していることも多いが、市民や事業者や行政に広報していく取り組みが大事ではないか。
- ・ 障害当事者の声ということで、一つのグループで話をしてもらうのはどうかという意見もあった。障害当事者の声をどう聞き取るかという話もあった。
- ・ 地域包括ケアについて、現在は障害別や行政で縦割りになっているが、高齢分野だけではなく、障害分野を含めた地域の再編が必要との指摘もあった。
- ・ 運営上の工夫については、参加者にどのような情報を持ち帰っていただくか、「楽しくやりたい」という話もあった。
- ・ 企画検討会は、高沢副会長のほか、今村委員と高見委員が参加。

○ 2グループ（藤間委員報告）

- ・ 計画相談がなぜ必要なのかという原点に戻り、計画を立ててよかったという当事者の声を含めて、前向きになれる事例の紹介などはどうか。
- ・ 行政と相談支援事業者、地活センターI型、基幹相談支援センターの役割分担やサービス等利用計画の様式などについて、行政と意思疎通ができれば、計画作成が進むのではないか。
- ・ 地域性に立脚した相談支援のありかたについて、事例を挙げて情報交換するのはどうか。
- ・ 障害児相談支援が進んでいないことを取り上げるのはどうか。
- ・ 地域自立支援協議会で議論したことをどのような成果に結び付けていくのか、具体的な例を挙げてみるのはどうか。
- ・ 地域移行について、精神障害だけではなく、知的障害の方の入所施設からの移行についても取り組む必要があるのではないか。
- ・ 企画検討会は、藤間委員のほか、溝口委員、鈴木委員が参加。

（沖倉会長）今後の進め方について、確認しておきたい。今年度は本会議の回数を3回から2回に変更し、地域自立支援協議会交流会を重視した活動展開にしたい。交流会は、1回目は日時、会場が決まっており（9/5 東京都社会福祉保健医療研修センター）、2回目（10月）は調整中。決定次第、ご連絡する。

委員の皆さんは、できればどちらか1回にはご参加いただきたい。当日のグループ討議のファシリテーターや企画などの役割がある。企画については、両グループから

参画される4名の委員と高沢副会長、藤間委員、事務局と相談しながら、交流会のテーマ、分科会の持ち方などについて、今後深めていく。

グループからの報告を伺っていると、協議会セミナーで情報発信する必要性があるテーマも含まれていた。セミナーのテーマについては、改めて皆さんに提案したい。

「東京都内の地域自立支援協議会の動向」冊子についても、バージョンアップ、リニューアルを図りたい。メール等でご意見をいただき、項目の選定をしていきたい。

次回3月の本会議では、2回の交流会で得られた地域協議会の活動等を整理して、挙げていきたいと考えている。

これで議事は全て終了したので、司会進行を事務局にお返しする。

(事務局) 本日は熱心にご議論いただき、ありがとうございました。議事運営については、会長、副会長、藤間委員にご協力いただき、ありがとうございました。

今後、地域自立支援協議会交流会の企画運営に関わってくださる委員の皆様におかれましては、ご協力をよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、平成26年度東京都自立支援協議会第一回本会議を終了いたします。